

## 東京大学を訪問しました。

令和5年7月18日(火)

真夏の日差しが照り付ける7月18日(火)、川手校長を団長とする本校職員3名が、東京大学を訪問しました。



今回の訪問の目的は、令和7年度から設置する津島併設

中学校や国際探究科で実施する総合的な学習(探究)の時間において、探究的な取組を今後さらに進めていくため、御協力を願うことでした。



今回訪問したのは、東京大学農学生命科学研究科 森林科学専攻 森林風致計画学研究室の山本清龍(やまもときよたつ)准教授です。

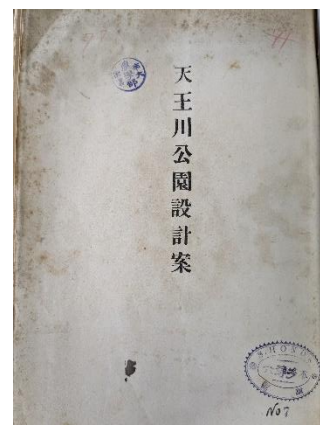


先生とつながったきっかけは、津島高校の所在地にあります。津島の天王川公園は、先生の研究室のルーツである本多清六先生によって、

大正時代に樹木1本1本まで計画的に配置された「風致地区」として設計されています。その設計図の中に津島第三中学校が位置づけられていることを、津島市観光協会の横井事務局長様から、以前伺っていました。今回、横井様に仲立ちしていただき、先生と面会できることになりました。

約2時間の面談で、川手校長から本校の現状(本校の歴史、令和7年度の併設

中学校と国際探究科のスタート、地元とのつながりなど)を説明しました。山本先生からは天王川公園を設計した当時の設計図を見せていただき、当時から津島高校が風致地区の中で文教的な役割を担っていたことが確認でき、大変感動しました(赤丸の部分)。



さらに、山本先生から、研究室が現在扱っている研究課題について説明がありました。そのテーマがまさに高校生にとって大変魅力のあるテーマ(世界遺産、観光地、レクリエーション、屋上緑化、オープンカフェの運営、いけばな、世界一小さな公園、ヒートアイランド、愛知県瀬戸市の演習林等)で、まさに探究的な学習につながるものと感じました。



最後にこれからも本校とつながりをもっていただけること、愛知県に立ち寄る際は本校に連絡していただくこと、今年度後半に可能であれば1年生の生徒に向けて講演いただきたいことをお伝えし、東京大学を後にしました。

今後、津島高校が視野の広い探究学習を進めていくための、大変大きな1歩となりました。津島高校は変わります。

教頭 金澤 学